

## 1 研究の成果

- ICT 機器とアプリケーションを用いて、授業をする方法がわかった。
- 遠隔授業でもサンホセと合同で教室に近い活動ができた。
- コロナウイルス流行による遠隔授業の実施もあり、教員も子どもたちも、日常的な ICT ツールの活用が進んだ。

## 2 研究の課題

- 本校とサンホセ日本人学校では、ICT ツールの活用状況や、授業内での活用に対する考え方が異なる。
- 学校の規模の違いもあり、今年度は本校では一部の教員しか実践の機会がなかった。
- 教員の人員の入れ替わりが激しく、昨年度と今年度の計画の違いがあった。
- 通常時の教室で行う合同授業の様子がわからない。
  - 今年度は教員も児童生徒も自宅からの遠隔合同授業だったため、教室からの合同授業は行えていない。
- ICT ツールを用いた授業の効果を高めるために、継続した取り組みが必要である。
  - 本校では全児童生徒分の機器が不足しているため、今年度の実践の形式(Zoom + ロイロノート)では、日常的な継続は難しいのではないかと。
- 授業前後で 2 校の教員(T1 と T2)での打ち合わせが必要である。
  - 今年度の実践では、毎授業前後に 2 校で連絡を取り合い、打ち合わせをしていた。T1 の授業を実現するために、両校の児童生徒の実態を伝え合う T1 と T2 の打ち合わせは不可欠である。

## アグアスカリエンテス日本人学校

### 『豊かな表現力育成』に向けての深化

日常的な合同授業に向けては、計画的な時間の確保が必要になる。

普段から気軽に教員同士の交流ができないか。  
(メール、Zoom のチャット等)

- 本校の研究テーマ「豊かな表現力の育成」に向けての研究ができたか。

→ ICT ツールは、本校の目標を達成するための手段である。

一方、ICT ツールを用いた授業を行うためには、教員も児童生徒も基礎的な技術が必要なため、本年度は ICT ツールための授業になってしまう場面もあった。

本校の目標である「豊かな表現」「様々な考え」の具体化と共有が必要である



## 3 来年度への展望

- 子どもの学習意欲を高めるための手段として、効果的に ICT ツールを活用していく。
- 遠隔授業でも実感や体験に基づく学びができないか考え、できることを掘り下げる。
- 研究の目的を明確にして、授業の課題に応じた ICT ツールの活用方法を考える。
- 「豊かな表現力の育成」の実現のためには、遠隔授業の中でも議論ができ、意見をぶつけ合えるような機会をつくる。
- 多様な教科で、多様な活用 ICT ツールの活用方法を見出す。
- 2 校で研究の目標を具体化して共有し、共通理解を図る。

報告：アグアスカリエンテス日本人学校  
阿部 邦弘 研究主任



↑校内研究反省会の様子

↓校内研究反会後の研究部でのまとめ

今年度の成果	今年度の課題	来年度に向けて
<p>ICT機器の活用能力の向上（教師も子どもも）</p> <p><b>遠隔授業の実用化</b></p> <p>子どもの作業や思考の共有化の方法が見いだせた</p>	<p>「豊かな表現力を育む」ICTの活用方法がわからない</p> <p><b>サンホセ校との打ち合わせ時間の確保</b></p> <p>教室下での合同授業の形が見えない</p>	<p>・子どもの意欲を高めるために、効果的にICTを活用する</p> <p>・遠隔でもできることを掘り下げる 遠隔だけど実感がある</p> <p>・課題に応じたICTの活用の仕方を考える</p> <p>・議論で意見をぶつけられるような機会がほしい</p> <p>・多様な教科で、多様な活用方法</p> <p>・サンホセと一つの目標、一つの目的にそろえる</p>
<p>教科を通して合同ができた</p> <p>ICTの活用が進んだ（AG5だからというよりはコロナによる影響の方が大きいと思うが...）</p> <p>合同授業ができた→発展させていく素地ができた</p>	<p>授業の目標≠ICT機器の活用（注意しないと目標を見失いがちになる）</p> <p>「さまざまな考えを伝え合う」ことが難しかった。少人数であること、オンライン上での限界があることが要因。</p> <p>「豊かな表現力の育成と楽しい授業」について、サンホセ校と十分な協議・共通理解ができていたのか、確認する必要がある</p>	
<p>アプリケーションの種類と活用の仕方を考えられた</p> <p>ロイロノートの活用・ジャムボードの活用など、遠隔授業が多角的に展開できた。辻</p> <p>アプリを使って様々なことができた</p>	<p>教室と教室をつなぐ授業では活用していないので、学校が再開したときにどのように活用するのか</p> <p><b>機器の扱いに慣れるのに時間がかかった。</b></p> <p><b>AG5にふりまわされた</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用が進んだ 教員も子ども日常的にパソコンやアプリケーションを使うことができた</li> <li>・授業の中で合同ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での合同授業</li> <li>・来年度教員のメンバーが入れ替わる</li> <li>・ICTを使って「豊かな表現力」が難しい</li> <li>・授業の目標=ICTの活用ではない ICTを使うことは目標ではなく手段 →サンホセとの共通理解</li> </ul>	

# 令和2年度 研究のまとめ

## 成果

コロナウイルス流行による遠隔授業もあり

日常的に

Zoom

サポセと合同で

ICT機器も使って

授業がひとりでできた (昨年までは交流)

教員も子どもも

ICT活用が進んだ

アプケーションも使って

ダイナート

Google アプケーション

## 課題

継続が必要  
↓  
機器の不足

教室での合同授業  
今年度はできていない

サポセと前提条件から作り (技術・考え方...)

アグアスの目標

「豊かな表現力」

ICT機器の活用

打ち合わせの時間の確保

↓

日常的な合同授業

↓

メール・Zoomのチャットの活用

「豊かな表現力」は...  
↓  
具体化

「豊かな表現力」は...  
↓  
一部の人しか実践できなかった

計画

子ども同士のつながり  
ITの子どもの理解

時間が必要

昨年年度からの計画のちがいは  
教員の入りがわりが激しい

## 来年度への展望

多様な教科で多様な活用方法で

ICTツールを活用して着目点上げる

笑顔 + 機器 → 笑顔

実感や体験にもとづく学び

議論 → 豊かな表現力

目標・目的を  
1つにそろえろ